

金澤古蹟志卷三

城郭諸曲輪上

○本丸

金澤府城は往昔尾山と稱し、小立野山崎山の尾崎にて、山城なる中にも、本丸の地は殊に高く、尾山の名は本丸の地より起れりと云ふ。舊藩三世權中納言利常卿、松坂檢校に尾山の濫觴を尋問ありけるに、昔一揆國成りし比、本願寺の末寺を建立するに、此の地能きとて、時の頭取仕る者、尾山とて芝山なるを米六石に永代買ひ取り、道場を建立し、(源)本願寺と名付けたり。其の地今の本丸なりと言上せし由、毛利隼之助詮益の拾纂名旨記、松梅語園に載せたり。三州志來因概覽附錄に云ふ。和歌者流尾山城を龜の尾山と贖ませたり。文化八年金城殿閣全く成りしとき、二月十八日越中古國府勝興寺の闍郁、散樂の見物を命ぜられしに詠歌あり。

萬代の龜の尾山の殿づくり

仰くも高し動きなきかけ

按ずるに、龜の尾山は蓬萊山にたとへ、萬代不易を祝したる歌なりと聞ゆ。倭訓栞に、かめ山は蓬萊山をいふ。かめのうへなる山ともよめり。此のかめは鼈也。蓬萊を戴きし故事、列子に見えたり。新六帖に。

いかにして行きて尋ねんかめ山に

しなぬくすりはありといふなり

又堀河百首に修理大夫顯季

峯高きこしのを山にいる人は

柴車にてかへるなりけり

安法法師家集に越のを山をよめる歌

こしのを山の紅葉のまだしきは

外よりしぐれくるまなりけり

按ずるに、越の尾山は白山の尾山にてやあらむ。若し然らば金澤なり。尾山と同意にて、城地を尾山といふも、或は白山の尾山なりといへり。藻蘆草或は夫木抄などに、越のを山は越中の山なるよし註すれど、取るに足らず。萬葉集